慶應義塾 医学部新聞
発行所
三四会医学部新聞編集室
〒160－8582
東京都新宿区信濃町35
電話（3353）1211 内線64096
会員については会費に購読料が含まれる
発行人　比企　能樹
毎月　1日20日発行

慶應義塾大学病院
●診療時間＝午前9時～午前11時
●電話番号（3353）1211（大代表）
信濃町駅前・各種診療

第14回慶應医学賞決定

先端的医療の実現に貢献する2名の優れた研究者に決定

慶應医学賞は、世界の医学・生命科学の領域において顕著かつ創造的な研究業績をあげた研究者を顕彰するもので、1996年より33名の研究者に対し授与されています。第14回目を迎えた今年度の慶應医学賞受賞者は、寒川賢治博士（国立循環器病センター研究所 所長）、Jeffrey M. Friedman博士（ロックフェラー大学 マリリン M. シンプソン教授 ハワード・ヒューズ・メディカル・インスティテュート研究員）の2名に決定いたしました。

本賞は、世界十数カ国の著名な研究者および研究機関から推薦された候補者の中から、学内外の80名の審査員による厳正な審査を経て、受賞者を決定しております。受賞者には賞状とメダルおよび賞金2000万円が贈呈されます。今年は12月4日（金）に授賞式および授賞記念講演を開催し、翌日5日（土）に受賞記念シンポジウムを開催予定です。

寒川 賢治 博士
国立循環器病センター研究所 所長

授賞テーマ：グレリンを中心とする新規生理活性ペプチドの発見と臨床への応用

成長ホルモン（GH）の分泌は、これまで視床下部ホルモンによって制御されていると考えられていましたが、GHS受容体（GHS-R）と呼ばれるオーファン受容体を介した機序が存在することが示唆されていました。寒川博士らは、独自の手法を用いてGHS-Rに特異的な内在性リガンドを世界に先駆け胃組織から精製・構造決定することに成功しました。この新規リガンドは3番目のセリン残基が脂肪酸（n－オクタン酸）で修飾されたユニークなペプチドであり、グレリンは、GH分泌促進活性に加えて、強力な摂食促進作用を持つことも明らかとされ、現在、拒食症の治療薬として臨床試験段階にあります。

Jeffrey M. Friedman 博士
ロックフェラー大学
マリリン M. シンプソン教授
ハワード・ヒューズ・メディカル・インスティテュート研究員

授賞テーマ：レプチンの発見とその生理作用の解明

肥満およびメタボリックシンドロームは現在世界的に最も重要な疾患の一つとされ、予防法や治療法の開発に多くの臨床的研究が行われています。

Friedman博士は食欲と脂肪組織形成を制御するホルモン、レプチンを発見し、レプチン－レプチン受容体システムが摂食とエネルギー消費のバランスを調節することを明らかにしました。

また、彼のグループは、レプチン濃度が高いにもかかわらずレプチン応答性を失っているために食欲が抑制されないことを示しました。レプチンの発見は脂肪細胞から分泌される脂肪細胞因子の研究や食欲やエネルギー消費、脂肪形成にかかわる他の遺伝子の研究を刺激し、この分野の研究を飛躍的に発展させました。

このように博士の研究はエネルギー代謝研究分野のエポックメイキングであり、肥満関連疾患の治療法の開発にも貢献するものと期待されます。

レプチンの発見は臨床現場ですでに使用されており、基礎医学と臨床医学を融合する学術的な分野で先導的な役割をされています。

国内外から集まった世界トップレベルの研究者たち

慶應グローバルCOE サマースクールを開催

8月3日から4日、本塾医学部総合医科学研究棟一番ラウンジにおいて慶應義塾大学グローバルCOE（GCOE）「幹細胞クラスター構想に基づいた次世代の慶應医学大学病院」のリサーチアシスタント（大学院生）によって11月の慶應義塾再興第160年記念行事（KEIO LAND 2008）（共催：日本学術振興会先端研究拠点事業、慶應・威風堂々プロジェクト）の一環として開催されました。

このシンポジウムはGCOEに所属する学生・若手研究者への教育と国際的な人材交流を目的として実施されたものであり、体細胞クローン技術やiPS細胞（人工多能性幹細胞）、ES細胞（胚性幹細胞）研究の世界的な権威であるイギリス・Kings College のAlan Colman教授や世界で初めて胎児脳を移植によるパーキンソン病治療を行ったスウェーデンのリサーチアシスタント（大学院生）によって11月の慶應医学賞受賞者による講演が行われました。本サマースクールでは学術の国際化を見据えて学術の講演は英語で行うなど、全行程を英語で行い、積極的な質問と懸命なディスカッションが行われました。高い意欲がうかがわれました。

また本シンポジウムは若手研究者が国際学会などで発表を行った大学院生を表彰する「GCOE奨励賞」を授与しました。この賞は諸君も自信を持っていただいて宜しいかと思います。質疑応答では、どんな質問が飛び出してくるか分からず、けっこう苦戦していた人もいたようです。その為の研究者自身の研究だけでなく、幅広くサイエンスを英語でディスカッションするトレーニングを積んでおくことが必要と思います。

若手研究者たちに向けてエールを送る Alan Colman 教授

拠点リーダー　岡野栄之

「GCOE奨励賞」は慶應医学大学院医学研究科の大変レベルの高い研究を行っている大学院生を対象として、Colman教授らの積極的な質問と懸命なディスカッションに対応できた若手研究者たちが積極的に応えていたことが望まれる。

なお、閉会式では優秀な発表を行った大学院生を「GCOE奨励賞」受賞者として表彰しました。

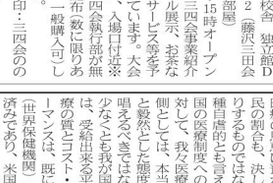
連合三田会大会で 日吉に集まろう！

2008年慶應連合三田会大会が、10月11日（日）日吉キャンパスで開催される。「地域三田会」と「職種三田会」の2種類の連合三田会大会が毎年交互に開催されており、今年は「地域三田会」の年にあたる。

今年から、三四会執行部内に「連合三田会GW推進部」を設置している。幹事役は各地域三田会の若手世代が務めている。幹事役は2年間の任期で、従来便宜的に、塾高出身者による横並びの幹事構成であったが、今年からは各地域三田会の特徴を踏まえた幹事構成とする。

三田会を母体とする組織が「慶應連合三田会」であり、それが「三田会」である。

会員諸氏におかれましては、左記掲示を参考に、青春の想い出がいっぱいの日吉に、ぜひお集まりいただきたい。



会場となる協立館

慶應連合三田会大会

10月18日（日）9時～16時
第4校舎　独立館D202（藤沢三田会と同部屋）

10～15時オープンし、三四会事業紹介パネル展示、お茶などのサービスを予定しています。大会券は、入場口付近で三四会執行部が無償配布（数に限りあり。一般購入可）します。

北島政樹名誉教授 国際医療福祉大学長に就任

平成21年4月1日付で、北島政樹名誉教授が「国際」的な医療専門職の養成を行っています。また、東京の青山に大学院を設置して社会人を含む約600人の医学生が学んでいます。学生たちはこの大学病院の医療現場で、医療スタッフとして必要なコミュニケーションスキルを「Interprofessional Program（IPP）」の新設などにますます拍車がかかるのではないかと期待されます。

北島先生が三田病院長に就任して以来、多くの医療人を育成してきた三四会員が動いた瞬間である。そして、消えた年金問題と共に、その引き金の一つとなったものの、小児科医療崩壊、外科医療崩壊、産科を中心とした医療崩壊、救急医療崩壊、産科を中心とした医療崩壊、救急医療崩壊、産科を中心とした医療崩壊、救急